

課題名：自然史と歴史が融合した「トイレのうんちく展」における体験型展示の実施

交付番号：202210

機関名および氏名：北九州市立自然史・歴史博物館 宮元香織

## 実施内容報告書

### 1 事業の目的

本事業の目的は、展示室への入場前に楽しく学べる体験型展示を設置することで、展示理解をより深いものとし、来館者の興味関心をさらに醸成することにある。開催予定の特別展において、新しい取り組みをおこなうことで、展示理解の促進と展示効果の増進に寄与することが目的であった。

### 2 実施事業内容

#### (1) ウンチ標本展示とその持ち主の紹介



ウンチ標本作成、展示風景写真

動物園で採集したウンチを当館で標本にし、当館が所蔵する剥製標本と共に展示し、普段何を主として食べているのか、どんな生活をしているのかについて紹介した。これらについては、当館の哺乳類担当学芸員と動物園獣医師の助言を受けておこなった。

ウンチ標本はいずれもアクリルケースをかぶせて展示したが、かなり好評を博したコーナーとなった。特に未就学児の小さい子どもたちは具体的に動物のウンチそのものを目の当たりにしたことで、入場する展覧会が自分にとっても身近なウンチにかかわる展示であ

ることをよく理解できたうえで入場していたといえる。

なお、解説文を記したXバナー下部（写真赤丸部分）には、貴財団の助成を受けてこの展示を実施している旨明記した。

## （2）『餓鬼草紙』実物大体感ゾーン設置



『餓鬼草紙』体感コーナー

当初、オープンギャラリー前に『餓鬼草紙』（東京国立博物館所蔵）を実物大で作成し、そこに描かれた人間のゲリ状のウンチ表現から、当時のおしりふきである籬木（ちゅうぎ・棒状の木製品や木簡の転用材）が使用されていたことやその効果を実感し、排便行為を模倣することで、トイレをより身近なものとしてとらえるきっかけを提供するコーナーを設置予定であった。その後、展覧会の構成を練り直すなかで、実物資料（近世の写本）を借用できる見込みが立ったことから、実物の資料により近い場所、展示会場内中央部付近に体感コーナーを設置した。コーナーパネルの前には貴財団の助成を受けて購入した高下駄や制作した籬木を作成して、設置することができた。多くの来館者が実際に高下駄を履いて籬木を使用するふりをするなどをして、古代の排泄方法やその状況を体感していた。

会場入り口に作成した実物大の畳敷きトイレ、会場奥の実物大の江戸時代の公衆トイレと合わせて、体験ができるコーナーとして非常に人気を博した。

## （3）獣医師による講演会

動物園ではたびたび動物のウンチ標本を用いて、ミニ講座や展示などを実施しており、非常に人気を博しているという。動物園でおこなわれているイベントに博物館用のアレンジを加えておこなうことで、通常動物園に行かない来館者、また反対に博物館に来ない来園者などに向けた新しい興味喚起をおこなうことを目的として、市内動物園の獣医師を招いた講演会「ウンチのうんちく」をおこなった。通常、博物館がおこなう講演会は、歴史・考古学分野をメインとしており、参加者の多くは70歳前後の高齢者であることが多い。本講演会では、通常の講演会によく来る高齢者に加えて、学生から未就学児まで、複数の子どもが参加し、講演会終了後は講師へ活発に質問する様子がみられた。

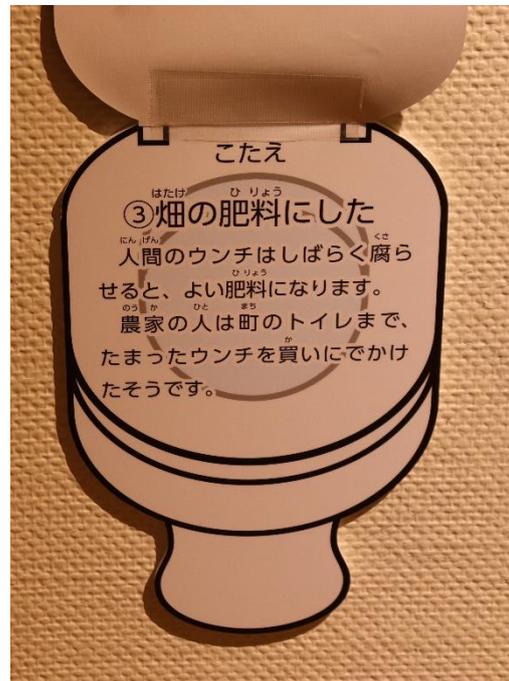
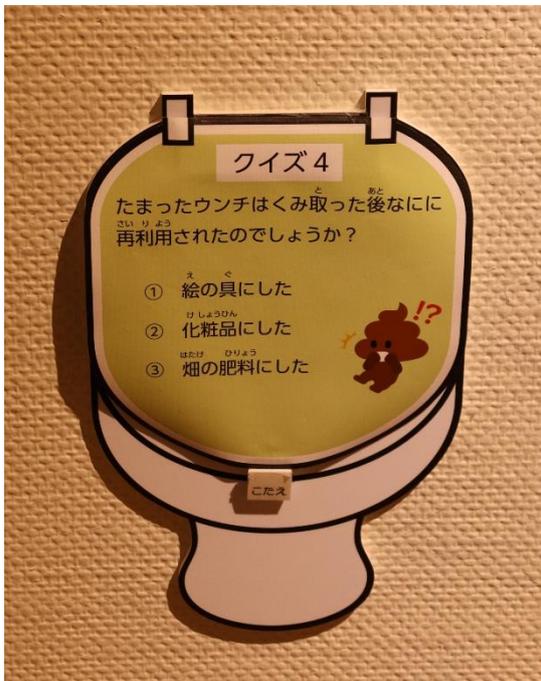
また、歴史・考古学に関心がある高齢者たちは、獣医師が持ち込んだ動物のウンチ標本



講演会の様子

に触れて会話をするなど、普段とは異なった雰囲気でおこなわれた講演会を楽しんでいた。参加者総数は68名であった。

(4) 子ども向けパンフレットと解説パネル作成

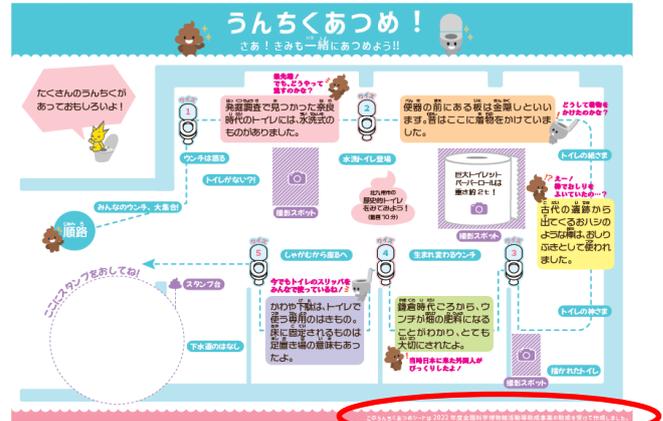


クイズと解説パネル【便座をめくるとクイズの回答をみることができる。】

子ども、特に未就学児や低学年児などにとって、歴史の複雑な展示を理解するのは非常に難しいところがある。そこで、イラストやクイズ、スタンプを併用した子ども向けパン



スタンプコーナーとスタンプ・クイズシート配布場所



スタンプ・クイズシート A4 を二つ折りにして配布。で側面 (左)・内面 (右)

フレットと解説パネルを作成して掲示・配布をおこなった。

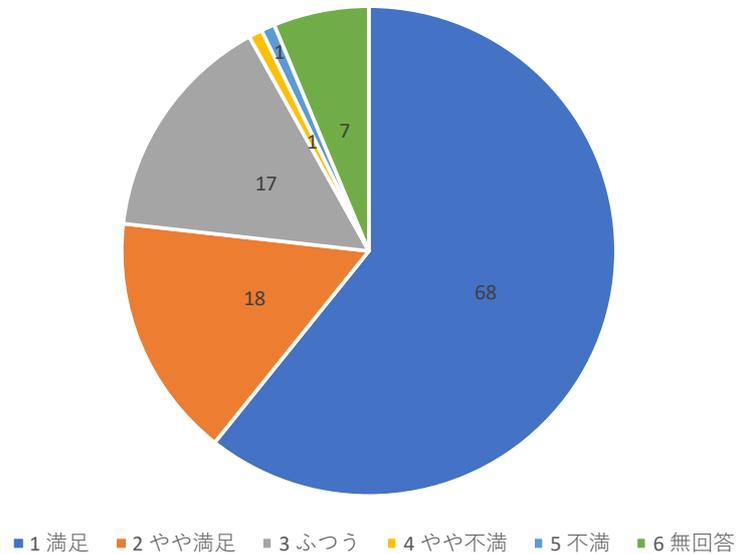
スタンプ・クイズシートは「うんちくあつめ」と名付け、会場内の簡単な模式図と共にクイズならびにスタンプの設置場所を明記した。体験者はクイズを番号順に解いていくことで、入り口から最後まで、すべての展示を見ることになる。

クイズの内容は子ども向けとして平易な内容を心がけたが、大人の来館者も内容を読んでいる姿がしばしば見られ、好評を博していた。スタンプ・クイズシートのデザイン及び印刷については本助成金を活用して柔軟に作成することができた。内面下部には助成金を活用して作成した旨明記した。

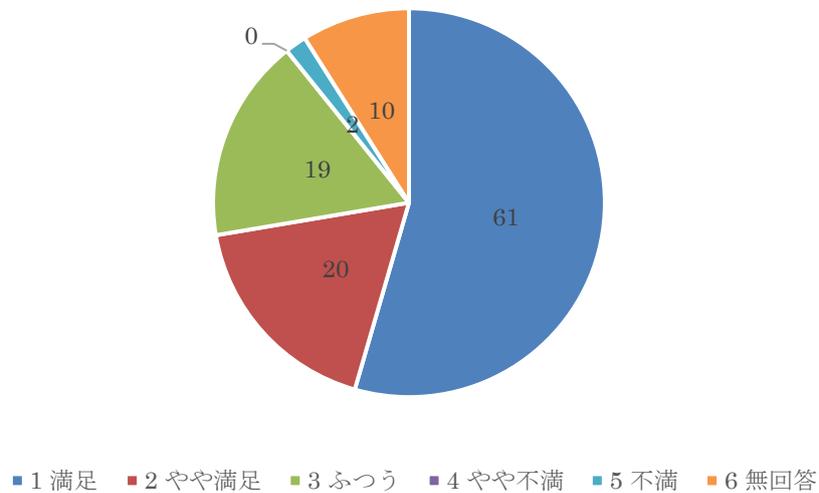
### 3 事業の成果

事業の成果としてはいくつか挙げられるが、特に展示理解を促進できたという面は大きかったと考える。当館の来館者は、一般的な歴史系博物館とは異なり、小学生や未就学児が多いことから、歴史系の展覧会において小さい子どもが退屈してしまう様子がしばしば見られ、未就学児の展示理解を促進することの難しさは常々課題であると考えてきた。

### 「トイレのうんちく展」の満足度は



### 無料配布しているクイズシートまたは展示解説パンフレットの満足度は



今回の展覧会においては、子どもにとっても身近なトイレやウンチを題材としたこともあり、小学生や未就学児の入場率が高いという特徴があった。特別展入場者の約 55%を未就学児及び小中学生が占めていた。また、当館では特別展の入場者数をその日の全体の入館者数で割った「回遊率」を入場者傾向の参考としているが、この展覧会の回遊率は平均 48%と高い値を示した。つまり来館客の半数程度が常設展だけでなく特別展にも入場した状況を確認することができる。

なお展示室内では子どもを連れた親が、解説パネルを読んで、簡単に説明する風景がし

ばしば見られた。また、内容の平易なクイズの設問も奏功し、比較的滞在時間が延びている様子もうかがえた。いっぽうで高齢の観覧者からのアンケート回答の自由記入欄に「展示室内が騒々しい」という指摘もあり、非常に難しい問題といえる。

アンケート調査によれば、展示、スタンプ・クイズシートにたいする満足度が高く出ており、実際スタンプ・クイズシートを1万枚印刷したが、会期中に配布終了となった。

また、『餓鬼草紙』体感ゾーンでは実際に高下駄を履いて体験する来館者が多く、他の実物大のトイレ模型2基とともに、写真撮影コーナーとしても人気となっていた。

#### 4 今後の課題

コロナ禍において開催したため、館として全体の入館者数を制限したこと、入館にはウェブで事前に予約することが必要なことなど、さまざまな障壁があったものの会期中の54日間に27,192名が入場した。当館における自主企画の歴史系展覧会としてはかなり多い入場者数であったといえる。

本事業計画において自然史と歴史の融合とテーマを掲げたように、分野を分断しない形での新しい展覧会を企画することが重要と再認識した。当館は総合博物館であるが、基本的には歴史系の展示と自然史系の展示とに分かれて特別展をおこなっている。当然ながら「地域の暮らしを掘り起こす」うえで、歴史資料に限定した、調査研究に基づいた展示は重要であり、またそれは自然史の分野においても同じことがいえる。しかし「何を展示したいか」という学芸員側の問題意識と共に、来館者が「何を期待しているか」、という点についても応えていく必要があると考える。今後も当館にしかできない、新しい展示方法や展覧会企画を発信していきたい。